発議案第1号

君津環境整備センター第Ⅲ期増設計画に関する意見書について

上記議案を別紙のとおり、君津市議会会議規則第14条第2項の規定により提出します。

平成30年6月22日

提出者 経済環境常任委員長 保坂好一

君津市議会議長 鈴木良次様

提案理由

千葉県に対して、新井総合施設株式会社が君津環境整備センター第Ⅲ期増設計画に関して、住民説明会を開催するよう指導を求めるとともに、千葉県自らも同説明会において、これまでの経過や対応を説明するよう意見書を提出するものである。

君津環境整備センター第Ⅲ期増設計画に関する意見書（案）

新井総合施設株式会社は、君津環境整備センター第Ⅲ期増設計画（以下「Ⅲ期増設計画」という。）に関して、平成30年4月5日に千葉県にボーリング調査の計画書を提出し、千葉県環境影響評価委員会及び千葉県廃棄物処理施設設置等審議会（以下「審議会等」という。）で出された、地層が異なっても地下水が混ざり合うことを前提として、安全対策を検討すべきとの意見を受け、敷地境界の外側へ汚染を拡大させない対策を行うことが何よりも重要であるとの新たな方針を示した。

その後君津市議会として知り得た、審議会等での専門家のⅢ期増設計画に対する意見は次の通りである。

「川の断面は一様ではなく、砂層と接する部分などがあるため必ず川の水から地下水へ涵養される分が出てくるはずである。表流水に放流したからと言って、地下水への影響がないというのは、専門的見地からは言えない。」
（平成26年9月22日 千葉県環境影響評価委員会会議録P14）

「上下での水の交換が起きる。地層に沿って水が流れるわけではないので、帯水層が異なるので影響がないというのは、現在の地下水学の観点からは認められない見解である。」
（平成27年12月18日 千葉県環境影響評価委員会会議録P4）

更には、千葉県が千葉県議会環境生活警察常任委員会の委員に公表した文書では、次のように記されている。

久留里には自噴井戸が多いことから、地下水が上昇しようとする力が強いと考えられ、地層が異なっても地下水が混ざり合う可能性が高い。したがって、処分場の地層と自噴井戸取水層の地層が同じか否かにかかわらず、万が一、処分場からの漏えいが生じ、敷地外へと汚染が広がってしまった場合には、久留里の自噴井戸の地下水が汚染される可能性も否定できない。
（平成29年8月25日 千葉県廃棄物処理施設設置等審議会）

これらのことは、処分場から場外への漏えいがあれば、上総掘り自噴井戸群が汚染される可能性があり、漏えいがなくとも処分場の排水により御腹川の水質悪化が進めば、穀倉地帯の農地ばかりでなく、上総掘り自噴井戸群も影響を受ける可能性がある、ということを示している。

君津市議会は、これらの事実に変驚愕している。

なぜなら同社は、Ⅲ期増設計画の説明会等では、一貫して「地層が違うため、万一処分場で事故があっても久留里の自噴井戸群の地下水に影響を与えない。」と説明してきたからである。

上総掘り自噴井戸の地下水や35万人の水道水の水源である小櫃川が処分場によって汚染されることは絶対に避けなければならない。

審議会等での専門家の意見がⅢ期増設計画にどのように反映されたのか、それを受けてⅢ期増設計画が実施された場合、久留里・小櫃地区の表流水・

地下水・生活環境等へどのような影響があるのか、処分場に万一事故があればどう対処するのか、地元住民は大きな不安と疑問を抱いている。

については、これらのことを払拭するため、千葉県は同社に対して、速やかにⅢ期増設計画に関する住民説明会を開催するよう指導するとともに、自らも当該説明会に同席し、これまでの経過や対応について説明するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成30年6月22日

君 津 市 議 会

千葉県知事 あて